

氏名	三宅清平
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙第273号
学位授与の日付	昭和43年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	癌の細胞学的研究 第1報 遊離癌細胞による細胞学的研究 第2報 子宮頸癌の細胞学的研究
論文審査委員	教授 橋本 清 教授 妹尾左知丸 教授 小川 勝士

学位論文内容の要旨

子宮頸癌細胞の細胞特異性を検討する目的で、染色体数、核DNA量、核容積等の関連を追求した。染色体観察は「低調処理押し潰し法」により、核DNA量は顕微分光測光法により測定した。

まず遊離癌細胞の得られるMH-134腹水肝癌を用いて基礎実験を行ない、染色体数、核DNA量、核容積の間はかなり著明な相関関係を確認した。

次に子宮頸癌120例中14例に明瞭な染色体を観察し得たので、この14例について上記の検討を行なった。

- 1) 染色体数は、一般に広範囲に分布し、最も多いのは2倍体域、なかでも高2倍体域で、次いで3倍体域、4倍体域の順であった。
- 2) 核DNA量に関しても、染色体数における場合と大体同様の傾向が認められ、核DNA量と染色体数との間には、かなり著明な相関関係が認められた。
- 3) 核容積は、正常子宮腔部細胞に比し、一般に異常に大きな核容積を有するものが多いのが特徴であった。また核容積と核DNA量との間には、かなり著明な相関関係が認められた。
- 4) 押し潰し標本における染色体出現率の高い症例は、腔内悪性細胞の出現率も高く、原発巣は外向性発育型のものが多かったが、染色体数や核DNA量と患者の年齢、臨床進行期及び病理組織像との間には、特に有意な関係は認められなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は、人子宮頸癌に於て染色体数、核 DNA 量、核容積等の関連を追求した。従来十分には確立されていなかった子宮頸癌の細胞学的知見に重要な寄与を加えた価値ある業績と認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。